

指定管理者候補の選定結果について（八幡図書館）

北九州市立図書館の指定管理者候補について（概要）

1 指定管理者候補

対象施設：北九州市立八幡図書館（折尾分館、八幡南分館含む）

候補：株式会社図書館流通センター

※応募状況 説明会参加：4団体、応募：3団体

※現在の指定管理者：株式会社図書館流通センター

2 指定期間

令和7年4月1日から令和12年3月31日まで（5年間）

3 選定方法

指定管理者候補の選定に当たっては、学識経験者や専門家等からなる指定管理者検討会を開催し、あらかじめ設定した選定基準に基づき、書類審査やヒアリング等を行い、提案書や応募団体に関する書類などを総合的に検討した。市は、検討会の検討結果を参考に、指定管理者候補を決定した。

4 検討会

(1) 構成員名（5名）[五十音順]

- ・[読書ボランティア関係者] 尾場瀬 淳美（北九州市子ども読書活動推進会議委員）
- ・[北九州市立図書館協議会] 鈴木 研（北九州市立図書館協議会委員（公募））
- ・[学識経験者] 中尾 泰士（北九州市立大学基盤教育センター教授）
- ・[財務関係専門家] 増田 幸一（中小企業診断士）
- ・[障害者団体] 森 聖子（北九州市身体障害者福祉協会常務理事）

(2) スケジュール

令和6年 9月27日 第1回検討会（書面審査及び応募団体のヒアリング）

10月 4日 第2回検討会（指定管理者候補の検討）

(3) 検討結果（◎の団体を選定）

区分	配点	(株) 図書館流通センター	ライブラリーパートナーズ八幡	(株) 日本施設協会
八幡図書館	110	◎91	77	88

※得点については、(株) 図書館流通センターは準市内団体であるため3点、ライブラリーパートナーズ八幡及び(株) 日本施設協会は市内団体であるため5点が加算されている。

(4) 総合的な所見

- ・評価結果を踏まえ総合的に検討した結果、株式会社図書館流通センターが合計得点91点と最高点になったことから、検討会としては、株式会社図書館流通センターが、指定管理者候補として相応しいと判断する。検討会での議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう市に求めることとする。
- ・なお、付帯意見として、「提案に基づき、年間の事業計画を適宜更新しながら、市民サービスがより良いものになるよう努力していただきたい。」「雇用される方の待遇改善については、引き続き努力していただきたい。」を付す。

5 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、以下のとおり、指定管理者候補を選定した。

株式会社図書館流通センター

〈主な選定理由〉

- ・(株) 図書館流通センターは、当該指定管理施設を管理してきた実績を有し、北九州市及び他自治体における実績も豊富であるため、専門的知識や実績を活かした図書館サービスが期待できる。
- ・財政基盤は安定しており、人事・福利制度や体系的な研修体制も確立され、指定管理期間中における図書館の安定的な管理運営が可能と考えられる。
- ・子どもからヤングアダルト、大人まで、多世代を対象とした提案の他、電子図書館の利用促進など、様々な視点から図書館利用者へアプローチしようとしている。
- ・PDCAサイクルによる業務の進捗管理と適正な予算執行の継続的な見直しの他、多くの受託業務で培ったノウハウを生かした業務改善を図っている。
- ・平等利用や安全対策、危機管理体制などに関し、スタッフの行動指針の明確化を図るとともに、研修等を通じた取組が行われている。
- ・企業として障害者や高齢者等の雇用促進に向けた制度や職場環境の整備を図るなど、社会貢献への取組が行われている。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により市議会の議決を経る必要があり、令和6年12月市議会定例会の議決により指定することとなります。

記

1 指定概要

(1) 施設概要

名称：北九州市立八幡図書館

所在地：北九州市八幡東区尾倉二丁目6番1号

施設内容：開館年月 大正9年9月（平成28年4月現施設に移転開館）

延床面積 1,514㎡

構造 鉄筋コンクリート造 3階建（1階と2階の一部）

蔵書数 185,843冊（令和6年4月現在）

貸出者数 57,848人（令和5年度）

貸出冊数 206,420冊（令和5年度）

名称：北九州市立八幡図書館折尾分館

所在地：北九州市八幡西区堀川町5番23号（オリオンテラス内）

施設内容：開館年月 昭和58年12月（令和4年7月現施設に移転開館）

延床面積 384㎡

構造 鉄骨造 1階建

蔵書数 32,662冊（令和6年4月現在）

貸出者数 19,683人（令和5年度）

貸出冊数 60,386冊（令和5年度）

名称：北九州市立八幡図書館八幡南分館

所在地：北九州市八幡西区茶屋の原一丁目6番1号（八幡南出張所2階）

施設内容：開館年月 昭和63年5月

延床面積 298㎡

構造 鉄筋コンクリート造 2階建（2階部分）

蔵書数 30,517冊（令和6年4月現在）

貸出者数 21,900人（令和5年度）

貸出冊数 93,983冊（令和5年度）

(2) 指定期間

令和7年4月1日から令和12年3月31日まで（5年間）

(3) 指定管理者候補の概要

名称：株式会社図書館流通センター

（東京都文京区大塚三丁目1番1号）

2 指定の経緯

令和6年 8月 9日	募集要項配布
令和6年 9月20日	募集締め切り
令和6年 9月27日	第1回指定管理者検討会の開催
令和6年10月 4日	第2回指定管理者検討会の開催
令和6年11月	指定管理者候補の決定

(1) 応募資格

図書館の管理運営を行う能力を有する法人、その他の団体で、本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有すること（個人による応募は不可）。申請意向届出書を提出していること。

グループでの応募も可能。その場合は、応募時に共同事業体を結成し、代表団体を定め、上記の要件をその代表団体に求める。

(2) 応募状況

説明会参加：4団体

応募：3団体（株式会社図書館流通センター、ライブラリーパートナーズ八幡、株式会社日本施設協会）

3 選定方法

指定管理者候補の選定に当たっては、学識経験者や専門家等からなる指定管理者検討会を開催し、あらかじめ設定した選定基準に基づき、書類審査やヒアリング等を行い、提案書や応募団体に関する書類などを総合的に検討した。市は、検討会の検討結果を参考に、指定管理者候補を決定した。

4 検討会構成員（5名）[五十音順]

- ・[読書ボランティア関係者] 尾場瀬 淳美（北九州市子ども読書活動推進会議委員）
- ・[北九州市立図書館協議会] 鈴木 研（北九州市立図書館協議会委員（公募））
- ・[学識経験者] 中尾 泰士（北九州市立大学基盤教育センター教授）
- ・[財務関係専門家] 増田 幸一（中小企業診断士）
- ・[障害者団体] 森 聖子（北九州市身体障害者福祉協会常務理事）

5 選定基準

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1	指定管理者としての適性
(1)	施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針
	<ul style="list-style-type: none">・図書館運営の基本的視点、あるいは設置目的や性格（生涯学習施設、情報収集・発信拠点施設）を十分に理解した上で、図書館の役割認識及び運営理念（考え方）を持ち、その内容が優れているか。・事業者の独自性（個性）が発揮されているか。
(2)	安定的な人的基盤や財政的基盤

- ・経営状況が良好で、長期間安定的な管理運営(指定管理業務)を行っていただくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。

(3) 管理運営実績や専門的知識を有する

- ・図書館運営の業務実績があり、一定の成果を上げているか。
- ・図書館の管理運営(指定管理業務)に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。
- ・複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。

2 管理運営計画の適確性

【有効性】

(1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み

施設の管理運営(指定管理業務)に係る事業計画の内容が、図書館の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的(図書館管理運営の基本的な考え方)に沿った成果が得られるものであるか。

以下の点を考慮した取り組み内容であるか。

- ・利用者ニーズに応えられる窓口対応や蔵書管理等に対する適正かつ具体的な提案はあるか。
- ・読書に親しむ子どもや大人を増やす具体的な提案があるか。
- ・中央図書館や子ども図書館、他の地区図書館との連携が図られているか。
- ・地区の幼稚園、保育所、小・中学校、特別支援学校、障害児童支援施設等との連携した取り組みについての提案があるか。
- ・区役所、市民センター、子育て関連施設、商業施設、レジャー施設等の多様な施設との連携した取り組みについて提案があるか。
- ・地元自治会、NPO・ボランティア団体、郷土史会等との連携した取り組みについて提案があるか。
- ・読み聞かせボランティアの育成や子ども司書の養成等、子ども読書活動推進のための取り組みについて具体的な提案があるか。
- ・広報活動を通じて、利用者への情報提供が図られるような効果的な提案があるか。
- ・ボランティアの活動支援や、利用者が参画できるイベントなど、親しみやすい図書館のための提案があるか。
- ・上記のほか、有効スペースの活用を通じて図書館の活性化に寄与する実施可能な提案があるか。

(2) 利用者の満足向上

- ・利用者の意見を把握し、図書館サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
- ・利用者からの苦情に対する対策(対応)が十分に考えられているか。
- ・利用者の抱えている課題解決を支援する取り組みについて、具体的な提案があるか。

【効率性】

(3) 指定管理業務に係る経費

<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の管理運営に係る費用が、効果的・効率的で妥当なものであるか。 ・図書館の管理運営に係る収支計画の内容（収支見積書に記載の人件費・物件費・事業費及び項目など）が、合理的かつ妥当なものであるか。 ・清掃、警備、設備の保守点検などの業務について、指定管理者から再委託が行われる場合、それらが適切な水準で行われているか。
<p>【適正性】</p> <p>(4) 管理運営体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理責任者、組織・管理体制が明確に示されているか。 ・施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。 ・施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有し、実践能力が高いか。 ・図書館職員の能力向上（レファレンス等）のため、内部研修の実施など、研修体制について具体的な提案があるか。 ・複数の図書館（地区館と分館）を管理するための連携が図られているか。 ・コンプライアンスに関する体制が整備されているか。 <p>(5) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。 ・利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるように配慮されているか。 ・日常の事故防止などの安全対策（盗難・痴漢・暴行行為等）や、事故発生時の対応などが十分に考えられているか。 ・防犯、防災対策や非常災害時（火災・台風・地震・水害）の危機管理体制などが十分に考えられているか。 <p>(6) 社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者等の雇用促進が考えられているか。 ・労働環境の向上への取り組みが考えられているか。 ・SDG s の達成や環境への配慮に関する取り組みが考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準 (=審査項目) 及びポイント	配点	評価レベル					平均	審査結果	得点
			構成員							
			A	B	C	D	E			
株式会社 図書館流通センター	1 指定管理者としての適性									
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	5	4	4	4	4	4.2	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	5	4	4	5	4	4.4	4	4
	(3) 管理運営実績や専門的知識を有する	5	5	3	5	4	4	4.2	4	4
	2 管理運営計画の適確性									
	【有効性】									
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	30	5	3	4	4	4	4.0	4	24
	(2) 利用者の満足向上	10	5	4	4	4	5	4.4	4	8
	【効率性】									
	(3) 指定管理業務に係る経費	25	4	4	5	4	4	4.2	4	20
	【適正性】									
	(4) 管理運営体制など	10	4	4	5	4	4	4.2	4	8
	(5) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	5	4	5	4	4	4.4	4	8
	(6) 社会貢献	10	4	4	5	4	4	4.2	4	8
	合計	110	101	81	100	89	90	—		88
地元団体に対する優遇措置(3点)									91	
ライブラリーパートナーズ八幡	1 指定管理者としての適性									
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	4	2	3	4	4	3.4	3	3
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	3	3	3	4	4	3.4	3	3
	(3) 管理運営実績や専門的知識を有する	5	3	2	3	3	3	2.8	3	3
	2 管理運営計画の適確性									
	【有効性】									
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	30	4	3	4	4	4	3.8	4	24
	(2) 利用者の満足向上	10	3	3	3	4	3	3.2	3	6
	【効率性】									
	(3) 指定管理業務に係る経費	25	4	3	3	4	3	3.4	3	15
	【適正性】									
	(4) 管理運営体制など	10	3	2	3	4	3	3.0	3	6
	(5) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	3	3	4	4	3.4	3	6
	(6) 社会貢献	10	3	3	3	4	3	3.2	3	6
	合計	110	78	62	72	87	76	—		72
地元団体に対する優遇措置(5点)									77	

株式会社 日本施設協会	1 指定管理者としての適性									
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	4	5	5	4	4	4.4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	4	4	4	4	4.0	4	4
	(3) 管理運営実績や専門的知識を有する	5	4	4	3	4	4	3.8	4	4
	2 管理運営計画の適確性									
	【有効性】									
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	30	4	4	5	4	3	4.0	4	24
	(2) 利用者の満足向上	10	3	5	3	4	3	3.6	4	8
	【効率性】									
	(3) 指定管理業務に係る経費	25	4	3	4	3	3	3.4	3	15
	【適正性】									
	(4) 管理運営体制など	10	3	4	4	4	3	3.6	4	8
	(5) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	3	4	4	4	3	3.6	4	8
	(6) 社会貢献	10	3	4	4	4	3	3.6	4	8
	合計	110	80	86	92	83	69	—		83
地元団体に対する優遇措置(5点)									88	

※「平均」欄は小数点第1位まで記入。小数点第2位以下は切捨て

(2) 検討会における主な意見

①株式会社図書館流通センター

- ・財政基盤は安定的で、運営実績もあり、適性は高い。
- ・電子図書館の利用促進やヤングアダルト向けなどの具体的な提案がなされている。
- ・会計や予算執行などのチェック体制、各種規程やマニュアル等が整備されている。
- ・人員配置も適正で、福利厚生や研修体制などが整備され、職員が安心して働ける環境が整備されている。

②ライブラリーパートナーズ八幡

- ・ヴィアックスには図書館の運営実績があり、白石書店は書店としての専門性はあるが、九州図書センターの役割が明確でない。
- ・図書の受取りや返却の工夫についての提案がなされているが、実行可能性が感じられなかった。
- ・子どもたちの読み聞かせを受け付ける工夫や書店のノウハウを生かした棚づくりの提案などは評価できる。
- ・研修の充実や多様性の配慮などはきちんと提案されているが、福利厚生や平等利用、安全対策などは具体性に乏しかった。

③株式会社日本施設協会

- ・他の図書館等の運営実績があり、財政面や人材面に問題はない。
- ・地元企業として、各館の立地や可能性を具体的に示し、地域活性化等の意欲は感じた。
- ・地域の施設や団体等との連携などの提案に関し具体性がなく、主体性が感じられなかった。
- ・効率性については、施設の維持費に比べ人件費が少し安いのではないかと思うが、全体としては上限額に沿っているので、特に問題はない。

(3) 検討会における検討結果（総合的な所見）

- ・評価結果を踏まえ総合的に検討した結果、株式会社図書館流通センターが合計得点91点と最高点になったことから、検討会としては、株式会社図書館流通センターが、指定管理者候補として相応しいと判断する。検討会での議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう市に求めることとする。
- ・なお、付帯意見として、「提案に基づき、年間の事業計画を適宜更新しながら、市民サービスがより良いものになるよう努力していただきたい。」「雇用される方の待遇改善については、引き続き努力していただきたい。」を付す。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、株式会社図書館流通センターを指定管理者候補に選定した。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり。

(2) 市における主な選定理由

- ・(株) 図書館流通センターは、当該指定管理施設を管理してきた実績を有し、北九州市及び他自治体における実績も豊富であるため、専門的知識や実績を活かした図書館サービスが期待できる。
- ・財政基盤は安定しており、人事・福利制度や体系的な研修体制も確立され、指定管理期間中における図書館の安定的な管理運営が可能と考えられる。
- ・子どもからヤングアダルト、大人まで、多世代を対象とした提案の他、電子図書館の利用促進など、様々な視点から図書館利用者へアプローチしようとしている。
- ・PDCAサイクルによる業務の進捗管理と適正な予算執行の継続的な見直しの他、多くの受託業務で培ったノウハウを生かした業務改善を図っている。
- ・平等利用や安全対策、危機管理体制などに関し、スタッフの行動指針の明確化を図るとともに、研修等を通じた取組が行われている。
- ・企業として障害者や高齢者等の雇用促進に向けた制度や職場環境の整備を図るなど、社会貢献への取組が行われている。

8 提案額

令和 7年度	108,467千円
令和 8年度	108,467千円
令和 9年度	108,467千円
令和10年度	108,467千円
令和11年度	108,467千円

提 案 概 要

(北九州市立八幡図書館 指定管理者)

団体名：株式会社図書館流通センター

1 指定管理者としての適性について

<p>(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針</p> <p>北九州市及び北九州市立図書館が示す姿を踏まえた上で、これまでの運営実績を礎に、引き続き、市民の期待に応えるサービス提供の実現に向けた運営の基本理念を「出合うべき1冊、出会うべき人をつなぐ～地域の多様なニーズに寄り添い、共に進化する図書館～」とします。これまでの4期17年にわたる運営の中で、これまで利用者や近隣施設と築いてきた関係を継続しつつ、絆と経験を活かし、地域の人々が自慢に思う図書館、地域が誇れる図書館を目指します。</p>
<p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤</p> <p>財務諸表を参照いただければ、売上高等の企業の安定性を示す指標からも良好な財務状況と業務遂行に適切な経営体質が備わっていることが確認いただけます。</p> <p>スタッフが安心して働くことのできる労働環境整備と安定雇用のために、図書館で働くスタッフに特化した、独自の人事制度や福利厚生制度、研修制度を確立しています。八幡図書館においても在籍スタッフの6割以上は10年以上の図書館勤務経験があり、豊富な経験を有しています。北九州市をはじめとした九州内に680人を超える図書館スタッフを有しています。</p>
<p>(3) 管理運営実績や専門的知識など</p> <p>図書館総合支援企業として全国で598館の図書館運営に携わり、地域の課題と向き合いながら、それぞれの施設に合わせたサービスの提供を行い、地域に密着した事業展開を進めてきました。これらの事業を推進するため、図書館運営に特化した専門部門があります。各部署には司書資格のみでなく、個人情報保護士、社労士、税理士など図書館を支えるための様々な資格所有者が在籍しています。</p>

2 管理運営計画の適確性

<p>【有効性】に関する取組み</p>
<p>(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み</p> <p>利用者である市民の皆様に気持ち良くご利用いただくために、特にカウンター業務では、上質なサービス提供が求められます。スタッフ全員が接遇についての意識を高めるために、研修を強化します。また、資料管理や書架整理といった図書館業務の基本的な部分をあらためて見直し、市民サービスの向上と業務の効率化を目指します。多くの方に図書館に来館してもらい、読書に親しんでもらうための様々な事業を企画します。幼児から高齢者まで、様々な方に喜んでいただける企画とするとともに、世代間の交流が生まれるような工夫を凝らします。企画に際しては、図書館独自に行うだけでなく近隣の様々な施設と連携協力し、市民が参加できる企画の開催など地域の活性化につながるような取り組みとします。</p>

(2) 利用者の満足向上

利用者が抱えている課題、求めている情報を正しく理解・把握し、迅速かつ確実な課題解決につなげるためレファレンスサービスを強化します。日々の業務での対応だけでなく、研修によるスタッフ育成に努めます。

より多くの市民に図書館の存在を知ってもらい、図書館が地域のふれあいの場となり、住民交流を促す施設となるため近隣施設への出張読み聞かせ等のアウトリーチサービスを行います。利用者の満足度向上のためには、社内外の情報共有は必須であると考えます。社内での体制のみでなく、中央図書館及び北九州市とのしっかりとした連絡体制を確立します。

【効率性】に関する取組み

(1) 指定管理料及び収入

指定管理者として適正な予算執行を心がけます。経費削減と図書館サービスの向上のバランスをよく考え、両輪で回していくことが重要であると考えます。常にコスト意識を持ち、課題を出し、改善策を講じ、検証を繰り返します。最低限のコストで、利用者に喜ばれるサービスの提供と充実を実現できると考えます。毎月、業務の進捗と予算の執行を確認し、予算を効果的に使えているかを確認し、計画を調整します。PDCA サイクルによる継続的な見直しにより、予算を最大限効果的に使用できるように努めます。

(2) 収支計画の妥当性及び実現可能性

適切な収支計画の作成と、事業計画に沿った予算執行に努めます。提供するサービスの質を低下させることなく、常にあらゆる面で業務の見直しや改善を行います。汎用的に導入できる改善内容をまとめた「業務改善ガイドライン」を参考に実践します。また、本社及び九州支社で集中して管理できる業務は専門部署による処理を行います。全国で多くの図書館の運営に携わる、わたしたちだからこそできる管理体制です。

【適正性】に関する取組み

(1) 管理運営体制など

館長を中心とした副館長及び窓口責任者による責任者グループを形成し、情報共有、スタッフ配置・研修等の検討を行い、生涯学習の拠点、情報発信の場となることを目指します。

また責任者グループは館長を中心に、現在も責任者として業務を行っているスタッフを可能な限り継続登用し、安定的な運営を行います。

本社内に図書館運営に特化した専門部署を設置し、図書館現場をバックアップします。

公共図書館で働くために必要な資質の育成のための理念をしっかりと持ち研修を行います。体系的な研修プログラムにより、スタッフの経験等に即した研修を行います。県立図書館等外部で実施される研修にも積極的に参加します。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

わたしたちは、世代や立場が異なる人びとが「居心地の良い場所」として図書館を利用するためには、他者の存在や行動を許容し合えることが重要であると考えます。ハードとソフトの両面において「他者の存在や行動を許容し合える場所」にするためにできることは何かを考え具

現化します。

安全対策としては、様々な自然災害や人的トラブルの事例を元に「危機管理マニュアル」を制定しています。本マニュアルでは、災害対応と人的トラブルの両面から、汎用的な危機管理スキームを定めています。万が一危機管理事案が発生した際には利用者の安全を第一に考え、迅速に対応します。

また事件・事故は何よりも未然に防ぐことが重要と考え、日々の業務の中での安全管理を徹底します。災害等が発生した場合は、人命を第一に、早急にサービスが開始できる体制を構築します。発災時には、立場や役割を超えて協力します。

(3) 社会貢献

高齢者の再雇用を推進するため、令和3年より「TRC シルバー人材バンク登録制度」の運営を開始しました。この制度は、弊社の就業規則上の定年である65歳で退職したスタッフのうち、退職後も図書館現場で就業を希望する人を対象としています。

専門人材の長期安定的な確保のため、スタッフが経験や能力を十分に図書館の運営に活かすことができ、いきがいや社会への貢献を感じられるよう職場環境を整備しています。

SDGsが目指す「誰一人取り残さない」社会をつくるうえで、図書館が重要な機関であることを示していると考えます。「SDGsに取り組むこと」を目的化するのではなく、本業務そのものをSDGsの理念・目標との関連の中で捉え、業務を通じて実践していきます。

提案額（千円）

7年度	108,467千円
8年度	108,467千円
9年度	108,467千円
10年度	108,467千円
11年度	108,467千円

北九州市立図書館指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 第1回 令和6年 9月27日(金) 14:30~16:30
第2回 令和6年10月 4日(金) 14:30~15:30
- 2 場 所 北九州市立子ども図書館 大研修室
- 3 出席者 (検討会構成員) 尾場瀬構成員、鈴木構成員、中尾構成員、増田構成員、森構成員
(事務局) 教育委員会中央図書館長、副館長(子ども図書館長)、運営企画課長、奉仕課長、運営企画課庶務係長、奉仕課奉仕係長、子ども図書館企画係長
※運営企画課庶務係長は第1回のみ出席

[第1回検討会]

○構成員の互選により、座長を選出。

○検討会の手順、選定基準、採点方法について事務局から説明。

○応募団体(株式会社図書館流通センター)から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。

(構成員) 現在管理している3館は、立地や利用者ニーズに特徴がある。八幡図書館は一般室の書架が高い。折尾分館はサテライト的で駅に近く、駐車場が無い。八幡南分館は、2階にあり階段しかないが、どのような工夫をしているか伺いたい。

(応募団体) 八幡南分館では、前もって来館時間を連絡してくる方もいるので、その時間にスタッフが1階で待機して予約を受けたり、定期的にスタッフが1階に降りて、お手伝いが必要な利用者がいないか確認するなどの対応を行っている。また、お手伝いする必要があるかないか、随時、利用者にお尋ねするようにしている。

(構成員) 特殊な事情はあるが、あの場所に八幡南分館が無いと周辺の方々は困ることを実感した。

子ども読書推進プランに関連して、ボランティア支援と育成、地域の学校との連携に関する提案があるが、図書館から小学校への派遣の現状について伺いたい。

(応募団体) 全国的な「子ども読書の日」には、分館を含めて、幼稚園や小学校から、ご依頼をいただくことがあり、依頼日までに期間がない場合は、職員配置等の調整が必要になることがあるが、できるだけ対応するようにしている。

(構成員) ボランティアの高齢化により八幡東区の高台にある小学校に行く人がい

ない。八幡東区の現状を踏まえて、八幡図書館で、もう少し近隣のボランティア人材の育成も行って欲しいと思っている。

(構 成 員) 3館の特徴と気を付けていることを伺いたい。

(応募団体) 八幡図書館は地区館であるため、幅広い利用者に対応できるよう、選書などの職員研修を行っている。

折尾分館は、学生の利用も非常に多く、学習のための利用やまちづくり記念館への来館者も多いため、ヤングアダルト世代が興味を引くような展示を行っている。また、有料駐車有場に停めて急がれている方などのため、目に付いてすぐに借りられるようなミニ展示を数多く作るといった工夫をしている。さらには、近隣の大学の学生とも連携している。

八幡南分館は、車で来館され、たくさんの本を借りられる方が多いが、エレベーターが無いため、高齢の方には職員がお手伝いするようなことを心がけている。また、小さな子どもを連れた母親向けの展示や行事を行うなどの工夫をしている。

(構 成 員) 正社員を配置すると書いているが、短時間勤務の人はパートではないのか。

(応募団体) パート・アルバイトの就業規則はある。例えば、夏季のアルバイトやパートなどは、現状は八幡図書館、折尾・八幡南分館にはいない。

勤務時間については、急激に給料を上げることが難しい中でも、少し勤務時間を減らした上で同時に給与も上げ、スタッフの負担を減らすということを考えている。1人のシフトで開館から閉館までの時間はないので、少しずつみんなで頑張るようにしている。

(事 務 局) 提案書に無期雇用者率が示されているが、無期雇用でない方は、正規社員だが雇用期限があるという理解でよいか。

(応募団体) その通りである。

○応募団体(ライブラリーパートナーズ八幡)から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。

(構 成 員) ヴィアックスは、図書館として素晴らしい経験値があると思うが、白石書店との関わり方について、具体的に説明をいただきたい。

(応募団体) 都城市立図書館を担当している書店が白石書店と同じグループの書店であり、そこからの紹介である。

町田市の図書館では、書店が指定管理業務を行っているが、貸出す本を書店で受取ることができる。例えば、八幡図書館3館で貸出しがあった場合に、白石書店で受取ることができるようにするということである。

また、新刊やこれから出版される本などを版元と書店が話し合って仕入れたりすることができる催しがあり、図書館でリクエストがあった場合、こ

の催しで見本を並べ、選書を行うことができる。福岡県内の他図書館に対しても、書店と図書館が一緒に組んでやることができるという実績を示せると考えている。また、九州図書センターも書店と図書館のかけ橋になることができればと考えている。

現在、福岡県内60市町村の内、19市町村には書店がなく、11市町村は1書店しかないという状況である。指定管理業務を受けることができれば、この先もいろいろと展開できると思う。

(構成員) ヴィアックスには、こちらに人材があまりいないかと思うが、運営ノウハウを提供するだけなのか。人材がこちらに来て指導するだけなのか。

(応募団体) ヴィアックスも人材を雇い、人を出し合って運営させていただく。白石書店が話したような意思を共有しながら、北九州市立図書館を盛り上げていくようバックアップさせていただきたい。

(構成員) 本に関しては、白石書店は有名でしっかりとした会社であると思うが、新たに九州図書センターを設立されているが、具体的に何をするのか。

(応募団体) 九州図書センターについては、今から核になっていくような会社になりたい。人材についても、大学の司書科の学生との連携を考えている。白石書店にアルバイトで来ている大学生が八幡図書館でボランティアをしていたりしているの、若い人材もどんどん入れていきたいと思っている。

(構成員) 情報化について、他社との違いや差別化要素という意味でどういう機能があるのか。

(応募団体) 九州図書センターは、データやネットを扱う会社になっていくので、八幡図書館のホームページ等の作成が主な担当となる。また、現指定管理者が作っている八幡図書館のページでもデジタルデータの公開等もされていると思うが、その辺の分野の機能も持たせていきたい。

(構成員) ヴィアックスには、そういうノウハウはあるのか。

(応募団体) ノウハウは持っている。全国で94館の管理運営を行っているが、一つとして同じサービス・展開を行っている図書館はなく、地域のニーズに応じたサービスを展開するということである。

長年、地元で展開してきた白石書店のノウハウや地域の連携というお互いの強みを生かしながら、市立図書館の発展に寄与したいということで、共同させていただいた。

ヴィアックスの特徴の一つである図書館の管理を見る担当者を専門的に置くことにより、労務管理もきちんと実施して、最終的には市民の皆さんに喜んでいただける図書館づくりを行っていければと考えている。

(構成員) 九州図書センターとしての役割は何か。

(応募団体) 九州図書センターの役割としては、SNS関係で図書館のイベントなどを

情報発信していく役割をお願いしている。

(構 成 員) 共同事業体の組織で職員を雇うということか。

(応募団体) 共同事業体で雇う。

○応募団体(株式会社日本施設協会)から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。

(構 成 員) いくつかの図書館を運営されているが、その図書館との違いについて説明していただきたい。

(応募団体) すべての図書館に集積された経験や実績は活かしていきたい。この八幡の地域性、文化の地域性といったものを活かす提案をしている。

八幡エリア、折尾エリア、八幡南エリアそれぞれにある学校や企業との連携や地域性を活かした提案であり、現在、指定管理を受けている他の図書館とは違いを出せているのではないかとは思っている。

(構 成 員) 地域柄、JICAや商店街、企業などと連携するとのことであるが、それによってどのような結果やメリットが市民に与えられるのか、少しイメージが湧かない。

(応募団体) 今までには図書館という館の中に収まった状態で、皆さんに利用していたが、図書館には資料もあり、レファレンスの能力もある。その図書館の能力自体をまず広く市民の皆さん、エリアの皆さんに知っていただく必要がある。

図書館に来ない方々にどのようにして図書館の魅力に興味を持っていただくことができるのかとなると、皆さんが多く居る場所に、我々が出向いていくことにより、そこで接点を増やして、興味を持っていただくことにより関係人口を増やしていこうということである。

(構 成 員) 何となくイメージは沸くが、例えば企業やJICA、商店街など、いろいろな連携先を書いているが、全部できるのか。

(応募団体) それは簡単である。今度は出て行くだけである。それを今まで行っていなかっただけである。既に、戸畑区なら戸畑図書館、小倉南区なら小倉南図書館で、地域性に合った施設や団体との連携を行っているので、それを八幡図書館に当てはめて行く形になる。できるかどうかの心配の懸念はないかと思う。

(構 成 員) 大学も図書館があるし、JICAにも図書室はある。そことどう連携してPRしてやっていくのか。

(応募団体) 例えば、JICAで今、一番地域の方に話題となっているのは、カフェである。ワールドワイドな食事がそこででき、そのワールドワイドな食事のベースになっている資料は図書館で提供できる。この情報を相互の場所ですり

ンクさせるだけで、利用者が興味を持つことになる。

それから、例えば地域のまつり起業祭などにブースを出させていただいて、八幡図書館のPRを行うことも考えている。また、周辺で一番大きいジ・アウトレットとの提携が考えられる。

(構 成 員) ミクニワールドスタジアムとの連携について伺いたい。

(応募団体) 例えば、ミクニワールドスタジアムで可能な有料のイベント等を、八幡図書館では無料で実施できるコンテンツを出すといった連携である。

(構 成 員) 職員の能力向上に向けた内部研修方法のアップデートという提案は具体的にどういうことを考えているのか。

(応募団体) 日本施設協会には、専門分野において全国レベルで講師・講演ができるスタッフがいますので、例えばフライヤー講座を提供する代わりに、接遇が良い図書館からは接遇の講座を提供してもらおう。これにより、双方がお金をかけずに、常に最新情報の講座を両方で交換でき、オンラインであれば、簡単に可能となる。これまでの固定された研修の他に、今一番欲しい情報の研修を外部から受けることができ、こちらも最新の情報を提供するという交換型の講座を持つことができる。これが弊社の強みである。

(構 成 員) 八幡西図書館や小倉南図書館など、共同事業体で管理しているところに比べ、八幡図書館は単体であるが、単体の方が実行性は高いのではないかと。

(応募団体) 共同事業体で運営している八幡西図書館や小倉南図書館では、意思決定には両者の承認を受けて初めて、予算を立てる、イベントを行うという手順になっているので、実行性については、単独の方がスピーディーに行うことができるのではないかと思います。

(構 成 員) 人件費については、今は物価などもどんどん上がっているような世の中だが、どうなのか。

(応募団体) 提案額については、他の図書館を十数年間、管理させていただいているので、人件費や維持管理費は現実に即した数字で、きちんと見積りをとっており、給与上昇分も見込んでいます。

働いている方々に有利な条件、働きやすい環境を提供しており、より良いサービスを提供するというので、今回提案させていただいている。

十数年指定管理業務をさせていただいているので、金額が不足するとか、そういった心配は全くない。

(構 成 員) 働く人のモチベーションが保てるのかという心配がある。

(応募団体) 賞与を出しているということ、休みも多く付与しているということ、かつ、契約職員やパートなどいろいろな雇用形態があるが、そこから社員登用を行っているということがある。

実際、現場で司書をしていた者が次長や館長になっている例もあり、そう

いうステップアップ制度もあるので、社員登用というのもモチベーションの一つになると考えている。

給与ベースについては、特に不利な条件ではない。休日についても有利な水準で出していると思うので、市内・福岡県ベースの給与水準と比べてもここだけ安いから、スタッフのモチベーションが下がるという心配はないと考えている。

単体の会社として北九州市でやっている弊社と全国規模の会社で全国型の管理をするところと比べても、かなり働きやすいと考えている。それが結局モチベーションに繋がるので、昨年度から司書資格を持ってない人への資格取得補助ということも始めて、非常に良い形で進んでいる。

○応募団体のプレゼンテーション終了後、各構成員との意見交換。

(構成員) 3社とも優良企業である。自己資本比率も高い。剰余金を見ると、もう少し人件費に還元してもいいのではないかと、というのが私の感想である。

(構成員) 指定管理料の単年度の上限額が決まっている。人件費は、年平均で7.96%上げていくということは、指定管理料が上がるということではなくて、指定管理料には上限があるものの、人件費は上げようということなのか。

(事務局) 市の予算は単年度予算であるため、5年間の総額から単年度の上限額を同額で設定することになっており、その単年度の上限額の中に、5年間で年平均7.96%の人件費上昇分を見込んでいるということである。5年間の総額の中でその部分をどう見ていくのかということになる。

(構成員) 北九州市がそのような指定管理料の方法を採用しているので、仕方ないと思う。

[第2回検討会]

○構成員が、ヒアリングや提案書、応募団体に関する書類などを総合的に検討して採点した結果を集計。審査項目ごとに各自の採点結果とその理由を発表し、意見交換を行った。

○「適性」についての意見交換

(構成員) 図書館流通センターは、財政的にも一番安定しており、実績がある。

ライブラリーパートナーズ八幡は、役割分担が不明確だった点が気になる。日本施設協会は、他の図書館等の実績もある。

(構成員) 図書館流通センターは、現在の指定管理者であり問題はない。

ライブラリーパートナーズ八幡は、共同事業体としての役割分担や提案

が明確でなかった。

日本施設協会は、他の図書館も運営されていることから、財政面や人材面、専門的な知識に問題はない。

(構 成 員) 図書館流通センターは、運営理念として特徴ある目標を立てている。財政基盤は安定的で、何かあったときも担保できる複数の賠償責任保険にも加入し、労働環境も整っている。

ライブラリーパートナーズ八幡は、北九州市の方針などを踏まえていることは分かるが、具体的にどうしたらいいのかが見えてこなかった。また、人的・財政的基盤の面では、ヴィアックスは全国での指定管理受託の実績があり、白石書店も書店として選書等の専門性を生かすことができるが、九州図書センターの責任分担がはっきりしていない。

日本施設協会は、図書館の役割を分かりやすく説明しており、地元企業ならではの、3館それぞれの立地や可能性を具体的に示し、地域活性化等の意欲は感じるものの、図書館運営の専門性についての説明が不足していると感じた。

(構 成 員) 図書館流通センターは、管理運営に問題はないが、3館それぞれの特色を生かしたより良い運営に向けての熱意などが今ひとつ感じられなかった。

ライブラリーパートナーズ八幡は、統一された独自性が見受けられない。ヴィアックスの運営実績は評価されるが、他の構成企業2社との責任分担が明確でなく、具体的な提案になっていない。

日本施設協会は、現在の他館の運営実績から、八幡図書館を運営するにあたって、良い方向にいくのではないかと思った。

(構 成 員) 図書館流通センターは、運営実績があり、図書館支援総合企業と謳っており適性は高い。日本施設協会も運営実績がある。ライブラリーパートナーズ八幡は、九州図書センターの役割が明確ではない。

○「有効性」についての意見交換

(構 成 員) 図書館流通センターは、3館の特徴の把握がきちんと出来ている。思わず本を借りてしまうような工夫がされており、本好きの人をくすぐるような企画が多く、専門性がある。利用者の満足向上も3館の特徴に合わせて詳細に具体的な提案がされている。

ライブラリーパートナーズ八幡は、図書好きを増やす選書の楽しみなどの提案があるが、3館の分析が少し弱い気がする。

日本施設協会は、3館それぞれの選書の工夫は考えているが、他の指定管理受託団体との連携に具体的な提案がなく、提案されているイベントのサービスの内容なども分からなかった。利用者の満足向上については、利用者

に対する内容があまり説明されていない。

(構成員) 図書館流通センターは、接遇に関する共通理解を図り、図書館のコンクールへの参加や特徴ある企画に取り組んでいる。また、利用者意見を把握するための工夫やユニークな企画も提案されている。

ライブラリーパートナーズ八幡は、図書の受取りや返却の工夫、子どもたちの読み聞かせを受付ける工夫は面白いと思った。また、視覚障害者や外国人への支援に関する提案は良いアイデアだと思った。

日本施設協会は、地域の施設や団体などと連携した図書館のにぎわいづくりのアイデア、ボランティア活動の立ち上げ支援、インターネット等活用などが提案されていて良いと思った。

(構成員) 図書館流通センターは、地域参加にかかる新規提案事項は評価できるが、地域の図書館として、近隣の小中学校との連携が少し弱いと感じた。

ライブラリーパートナーズ八幡は、図書の返却等の工夫が提案されているが具体的なことが書かれておらず、実施可能と感じられなかった。書店のノウハウを生かした本を選ぶ楽しい棚づくりの提案はとても良いと思った。

日本施設協会は、現在、指定管理に関わっている図書館の特徴を把握し、実施可能であろう提案がされている。

(構成員) 図書館流通センターは、電子図書館の利用促進について具体的な提案が記載されていた。ヤングアダルト向けの具体的なアプローチなども記載されており、AI技術等を使ったワークショップなど、非常に興味深い提案がされている。

ライブラリーパートナーズ八幡は、ヤングアダルトに向けた提案もあるが、特に惹かれるものがなかった。

日本施設協会は、ヤングアダルトに関する提案はあったが、ポップカルチャー関連会社とどのようなことをするのがよく分からなかった。また、他の機関等につなぐという提案が多く、主体性が感じられなかった。

(構成員) 日本施設協会については、いろいろなイベントの提案はあるが、実効性や有効性については少し疑問に思った。

○「効率性」についての意見交換

(構成員) 図書館流通センターは、会計や予算執行に関し、図書館と本社などとの相互チェックの体制が整っており、しっかりしていると思った。

ライブラリーパートナーズ八幡は、他の自治体の図書館の実測値などを参考に作成している。

日本施設協会は、他の図書館の運営実績を基にして収支計画書を作成し、経費削減の方法についても少し言及している。

- (構 成 員) 図書館流通センターは、問題ないと感じた。
- (構 成 員) 日本施設協会は、施設の維持費が他の団体と比べても少し高く、その割に人件費がちょっと安いのではないかと思うが、全体としては、上限額に沿っているので、特に問題はないと思う。
- (構 成 員) 図書館流通センターは、決裁規程がきちんと書いている。また、人件費上昇についても、もう少し工夫がほしいところであるが考慮されている。
ライブラリーパートナーズ八幡と日本施設協会は、人件費上昇分の見込みが弱いのではないかと思った。

○「適正性」についての意見交換

- (構 成 員) 図書館流通センターは、チラシや展示物の3館連携がとても図られていると思った。また分館ならではの、職員から利用者への細やかなレファレンスや案内がされており、現状の問題点とその改善策も具体的に記載されていた。また、正規雇用を中心に取り組まれていると思った。
- (構 成 員) 図書館流通センターは、全国の企業であり、いろいろな規程を北九州市の図書館に適用することで問題なく務められるのではないかと思う。
ライブラリーパートナーズ八幡は、構成企業に書店が入っていて、文化創造基盤としての拠点振興の観点からの提案はユニークに思うが、九州図書館センターの役割が明確ではない。
日本施設協会は、標準的な内容で普通である。
- (構 成 員) 適正性については、最低限、どの団体も運営できると考えた。
- (構 成 員) 図書館流通センターは、職員の人員配置も適正で、週の勤務時間も工夫されており、研修のカリキュラムもしっかり確認できた。平等利用は、対象者別の対応マニュアルが具体的で、全員職にわかりやすいものが作られて良いと思った。
ライブラリーパートナーズ八幡は、提案があまり具体的ではなかった。平等利用は、研修の充実や多様性の配慮、救急救命講習はきちんと提案されている。
日本施設協会は、研修における職員相互の教え合いなどの提案があったが現実的なのかなと思った。
- (構 成 員) 図書館流通センターは、福利厚生がしっかりしており、安心して働くことができる職場が整備されている。また、体系的な研修制度や研修を行うための環境や体制も整っており、個人情報保護対策としての監査の他、平等利用や危機管理に関する計画や対策なども具体的に書かれている。
ライブラリーパートナーズ八幡は、福利厚生や平等利用、安全対策、危機管理に関しては記述が少なく、具体性に乏しいと感じた。研修体制なども、

ヴィアックスの内容が書かれていたが、共同事業体としてどうするのかを記載してもらいたかった。社会貢献について、従業者の精神的な支援にも配慮した労働環境向上への取組は良いと思った。

日本施設協会は、司書資格取得のための支援をしているが、福利厚生は、具体的な内容が書かれていなかった。社会貢献については、高齢者や障害者等の雇用促進の取組は良いと思った。

○「付帯意見」についての意見交換

(構成員) 検討会として、指定管理者候補としてふさわしいと判断する団体に対して、付帯意見を付することができるが、ご意見はないか。

(構成員) 指定管理者制度の見直しにより、更新制の仕組みも導入されるとのことであるが、これによりマンネリ化することが怖いと思う。

(事務局) 1回目の検討会でもご説明のとおり、A又はBという高い評価が初年度から3年間連続するという条件があり、自動的に更新されるものではない。

また、指定管理者の指定にあたっては、協定を締結するとともに、毎年度、事業計画を立ててもらうため、市もその都度チェックしていく。

(構成員) 指定管理者の職員の雇用条件についても、新しい提案を受けながら、より良くなるようにできるといいかなという気がする。

○最終結果について

最終の評価レベルは、図書館流通センターが88点、ライブラリーパートナーズ八幡が72点、日本施設協会が83点となり、地元団体に対する優遇措置として、図書館流通センターは準市内団体であるため3点を加えて91点。ライブラリーパートナーズ八幡は市内団体であるため5点を加えて77点。日本施設協会は、市内団体であるため5点を加えて88点。こちらの点数を当検討会の得点とする。

評価結果を踏まえ総合的に検討した結果、総合計得点で91点の図書館流通センターが最高点となったことから、検討会としては、この図書館流通センターが指定管理者候補としてふさわしいと判断する。

なお、検討会の付帯意見として、「提案に基づき、年間の事業計画を適宜更新しながら、市民サービスがより良いものになるよう努力していただきたい。」「雇用される方の待遇改善については、引き続き努力していただきたい。」を付すこととする。